

【準決勝】

専修大松戸 vs 習志野

専修大松戸は1-4-4-2の中盤ダイヤモンド型、習志野は1-3-4-1-2システム。雨の影響でスリッピーなピッチ状況の中、関東大会出場を懸けた一戦は、前半立ち上がりからお互いにリスクを負わずにロングボールを活用し、セカンドボールを拾い合う展開が続いていく。専修大松戸は拾ったボールを素早く相手の背後へ供給し、セカンドボールの回収から個人技のあるMF⑩佐藤とMF⑭鬼頭がボールを収めて攻撃のリズムを作りたい。対する習志野は競り合いと対人に強い3バックと守備的なDF④本間を中心に専修大松戸の縦に早い攻撃を阻止し、カウンターと相手陣地で得たセットプレーから得点を狙う。徐々に攻守の切り替えのスピードで上回る専修大松戸が主導権を握り、カウンターから好機を演出するが得点にはつながらず。対する習志野もDF②笠原のロングスローやCKなどセットプレーからチャンスを作るが、両チームゴールを奪えず前半終了。

後半もロングボール中心の展開となる。専修大松戸は、FW⑨川岸のポストプレーとサイドバックの積極的な攻撃参加によりゴール前に厚みをかけるが、習志野の強固なゴール前の守備を崩せない。対する習志野は相手を引き込みながら2トップをターゲットにカウンターを狙うが、専修大松戸がルーズボールを回収しペースを握る。習志野は交代出場のFW⑨武田のポストプレーを起点に運動量豊富な前線がカウンターから相手陣地での攻撃時間を増やす。67分、習志野はハーフライン付近で得たDF⑥岡田のFKから一度は跳ね返されたボールを再び前線に供給、DF⑤石黒が抜け出し、GKの飛び出しに右足のループシュートで先制に成功。追う展開となる専修大松戸は選手交代と、手数をかけない縦に早い攻撃からゴールに迫りたいが、習志野は3バックとボランチを中心に相手のロングボールを粘り強く跳ね返し続け、そのまま試合終了。少ないチャンスをものにした習志野高校が1点差を守り切り、関東大会出場を決めた。

千葉県立松戸馬橋高等学校 佐藤 研人

市立柏 vs 八千代

雨が降り続き、芝生が泥濘んでいるピッチでの2試合目。市立柏は1-5-2-3のフォーメーション。八千代は1-4-2-3-1のフォーメーション。序盤は八千代がボールを握る展開。市立柏は5バックで背後のスペースを消しながら中盤で奪ったボールを素早く前線の3人に送り、カウンター攻撃を仕掛ける。対する八千代はGKと2人のDFを起点に自陣からビルドアップ。八千代MF⑳松本を中心にピッチの幅と深さを使い、長短のパスを織り交ぜながら相手の陣地に攻め込む。次第に市立柏のDFライン前方にスペースができてはじめ、八千代の2トップにボールが入る回数が増える。29分、セットプレーから試合が動く。市立柏はMF⑩坂西の低く速いCKをニアサイドでFW⑪野村が合わせ先制、1-0とする。八千代も35分に右サイドを起点にキープし、DF③笹川がインナーラップで駆けあがる。マイナスに上げたクロスにFW⑪三枝が合わせて1-1とする。その後、市立柏はシンプルにDFラインの背後にスルーパスを送り相手ペナルティーエリア

に迫るが、八千代 DF⑤木村を中心とした粘り強い守備でこれをシャットアウト。前半を 1-1 で折り返す。

後半開始早々の 4 2 分、八千代は左サイドのパスワークから DF②一木の低いクロスに対して MF⑨小金谷が合わせて 2-1 とリードする。その後もボール保持の回数が多い八千代が流動的なポジショニングやダイレクトプレーを駆使し、試合を優位に進める。後半残り 3 0 分、市立柏は 4-4-2 にシステムを変更。途中交代で入った DF⑬畠山を前線に上げ、スピードのある FW⑪野村との 2 トップにすることで中盤の人数を増やす。前掛かりになった相手に対し、八千代はサイド攻撃からペナルティーエリア内でシュートチャンスを作り出すが決めきれない。6 9 分に市立柏は 3 人の選手を同時交代、1 点を取りに前に出る。しかし、八千代は前半から落ちることのない運動量とプレススピードで相手の攻撃を阻止、ボールを奪い返す。最後まで攻撃の手を緩めなかった八千代高校が 2-1 で勝利。関東大会出場と決勝戦進出を決めた。

千葉県立市原八幡高等学校 石川 大志